



「女性のための神社なので、女性の気持ちがわかるよう息子を育てています」。宮司としての思いに、母心も加わり、未来の宮司へ引き継ぐ準備が進められる。



①鳥居をくぐると、海産物売店が並び、壺焼きの醤油の香りが旅情をそそる。②創建は仁徳5年(西暦317年)3月3日。友ヶ島に祀られていた少彦名命を仁徳天皇が祠に納め、この地に移したのが始まりとされる。③赤やピンクの色使いに、かわいいイラストが施されたお守りは、女性に人気の淡嶋神社ならではの。④奉納された人形を運ぶのは力仕事。動きやすいようにと巫女さんたちはTシャツ姿。⑤「今年の雛流しは、コロナの影響で一部行えなかった行程もありました。これからのいろんな困難があるでしょうが、地域の方と共に笑顔で歴史を積み重ねていきたいです」。

淡嶋神社って こんなところ

①全国から奉納された雛人形と願い事を書いた形代を3隻の木舟に乗せ、お祓いをしたあと海に流す雛流しの神事。和歌山市に春を告げる風物詩となっている。②役目を終えた人形たちが境内に所狭しと並ぶ。③奉納された雛人形の中で最も古いもので明治時代のもので伝わる。④狸や招き猫、縁起物の干支など陶器製の人形の奉納も多い。かわいらしい光景に、思わず笑みがこぼれる。



創建以来、1700年受け継がれてきた思いを未来へ

宮司 ● 前田智子 まえだともこ

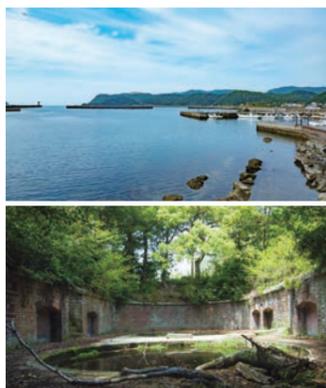
磯の香りが漂い、友ヶ島が目の前に広がる加太漁港の近く。拜殿の周りや境内のいたるところに所狭しと人形が並ぶ淡嶋神社。祀られているのは、婦人病や安産祈願など、女性のための神様として信仰を集める少彦名命。毎年桃の節句に行われる雛流しの神事で有名なこの神社で、創建以来はじめての女性宮司が誕生した。「2年前、前宮司である夫が他界しました。代々前田家が守ってきた淡嶋神社。その信仰と1700年の歴史を途絶えさせることはできません。そこで不安ばかりでしたが、私自身が宮司となりました」と話すのは前田智子さん。その口調には、並々ならぬ決意が感じられた。嫁いだ時から、夫の仕事を手伝うこともあり、ご祈祷の所作や雑用なども間近で見れていたが、いざ宮司という役職を担うとわからないことばかりで日々戸惑うばかり。「未熟で不安がつているそんな私に、昔はこうだったのよ、こんな風にすればいいのよ」と地元の方々から多くのことを教わりました。

宮司の日課は、朝夕のご祈祷や奉納された人形のお祓いなどだけでなく、人形の整理や社務所で御守等の授与も務める。土日や戌の日、大安・友引には、安産祈願や婦人病のご祈祷など予約がびっしり。時に、参拝者から悩みの相談を受けることもある。「女性同士だからこそ打ち明けられる内容もあります。妻の立場でアドバ

イスすることや、いつの間にか立場が逆転し、参拝者の皆様方に励まされることもあります(笑)とユーモアを交え話す。「神社は神が宿る神聖な場として崇められ、初詣や七五三など神事があれば訪れる特別な場所」と多くの人に思われています。しかし前宮司は当社を「人々が楽しく集まり賑わう場所、憩いの場所にしたい」とよく話していました。そんな思いは前宮司から私へと繋がれ、そして息子へ託したいと思っています」と優しく語りつづけた。

淡嶋神社
住所 / 和歌山市加太
電話 / 073-459-0043
<http://www.kada.jp/awashima/>

マリンスポーツや 温泉グルメも楽しめる 歴史ある港町



古くから海上交通の要衝として繁栄し、今でも釣りや海水浴で賑わう観光地。対岸の友ヶ島は、旧日本軍の砲台跡など数多く残り、写真映えする人気のスポット。令和2年度日本遺産に認定された「葛城修験一里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」の関連地でもある。海峡で育った魚は身が引き締まり、中でも真鯛は食通を唸らせるうまさ。